

## モモシクイガ多発りんご園周辺園地における 交信かく乱剤の追加防除の評価

### 【1 成果の概要】

- (1) 周囲にモモシクイガの多発園がなく、慣行の殺虫剤防除によりモモシクイガの密度が通常に保たれている園地（フェロモントラップによる誘殺数 100 頭未満）においては、**交信かく乱剤による追加防除により被害が発生しません。**
- (2) 廃園、管理不良等によりモモシクイガが多発している園地周辺では殺虫剤防除に加えて**交信かく乱剤を設置してもモモシクイガの被害を防ぐことは困難です。**

表 1 収穫時被害果発生状況（H28）（調査日：11/7）

	試験区(殺虫剤防除+交信かく乱剤区)					対照区(殺虫剤防除区)				
	調査品種	距離 <sup>Z)</sup>	調査果数	被害果数	被害果率(%)	調査品種	距離 <sup>Z)</sup>	調査果数	被害果数	被害果率(%)
多発園地	ふじ	15~55	1,005	3	0.30	ふじ	30~60	1,039	7	0.67
通常園地	ふじ	125~160	612	0	0.00	ふじ	250~300	1,119	2	0.18

表 2 収穫時被害果発生状況（H29）（調査日：シナノゴールド 10/24、ふじ 10/24,11/17）

	試験区(殺虫剤防除+交信かく乱剤区)					対照区(殺虫剤防除区)				
	調査品種	距離 <sup>Z)</sup>	調査果数	被害果数	被害果率(%)	調査品種	距離 <sup>Z)</sup>	調査果数	被害果数	被害果率(%)
多発園地	ふじ	15~55	7,337	107	1.46	ふじ	30~60	7,935	5	0.06
通常園地	ふじ	125~160	11,901	0	0.00	シナノゴールド	170~200	4,747	0	0.00

表 3 収穫時被害果発生状況（H30）（調査日：シナノゴールド 10/25、ふじ 10/26、11/13）

	試験区(殺虫剤防除+交信かく乱剤区)					対照区(殺虫剤防除区)				
	調査品種	距離 <sup>Z)</sup>	調査果数	被害果数	被害果率(%)	調査品種	距離 <sup>Z)</sup>	調査果数	被害果数	被害果率(%)
多発園地	ふじ	15~55	9,551	37	0.39	ふじ	30~60	5,088	5	0.10
通常園地	ふじ	125~160	7,874	0	0.00	シナノゴールド	170~200	3,777	0	0.00

Z) 距離は、モモシクイガ高密度園からの直線距離（m）を示す

※メタアナリシス（変量効果モデル）により推定されたリスク比は、通常園地に比べ多発園地で 62.82 倍

### 試験概要等

- 1 場内で管理しているりんご園のモモシクイガ被害がほぼ 100%の区画から約 60mの範囲の区画を多発園地、125m以上離れ、モモシクイガのフェロモントラップによる年間誘殺数が 100 頭未満の区画を通常園地とした。
- 2 試験区は慣行の殺虫剤防除（6 月中旬以降、約 10 日間隔）に加え、交信かく乱剤（シクイコン 100 本/10a）を設置した（設置日 H28：6/10、H29：5/29、H30：5/31）。対照区は慣行の殺虫剤防除を行った。
- 3 試験区の規模は約 15a。
- 4 樹齢：多発園地試験区 22 年生、対照区 10 年生（品種：ふじ）。通常園地試験区 11 年生（品種：ふじ）、対照区 12 年生（シナノゴールド）。
- 5 被害果は、樹上の果実を目視で調査・計数した。被害果は採取して分解し、幼虫の加害種を識別した（確認できた加害種は全てモモシクイガ）。

### 【2 留意事項】

- (1) モモシクイガの密度が高まった廃園・管理不良園を伐採した場合には、モモシクイガは寄生する果実を求めて分散するため、周辺りんご園でさらに被害が大きくなる可能性が高くなります。
- (2) りんごの輸出を検討している場合は、輸出先においてモモシクイガの寄生が確認されると輸入停止の措置が行われることがあるため、廃園・管理不良園の有無、モモシクイガの発生密度を確認の上、確実な防除を実施しましょう。

※本研究は農林水産省「輸出植物検疫協議の迅速化事業」リンゴのモモシクイガを対象とした検疫措置により実施したものです

担当研究室 環境部 病理昆虫研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4424 FAX. 0197-71-1085